

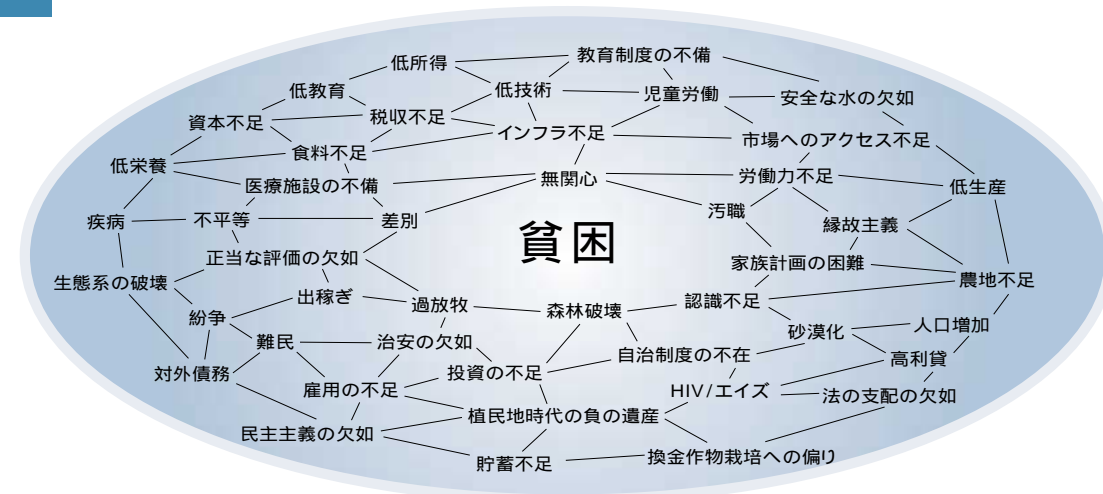


# 世界の貧困

01

## B 複雑に絡み合う貧困の諸要因

DATA



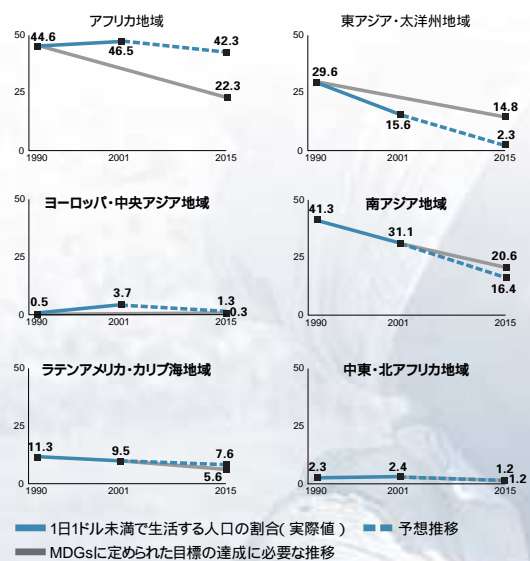
参考：JICA「開発課題に対する効果的アプローチ(貧困削減)」、ほか

## C 1日1ドル未満で生活する人と国内格差

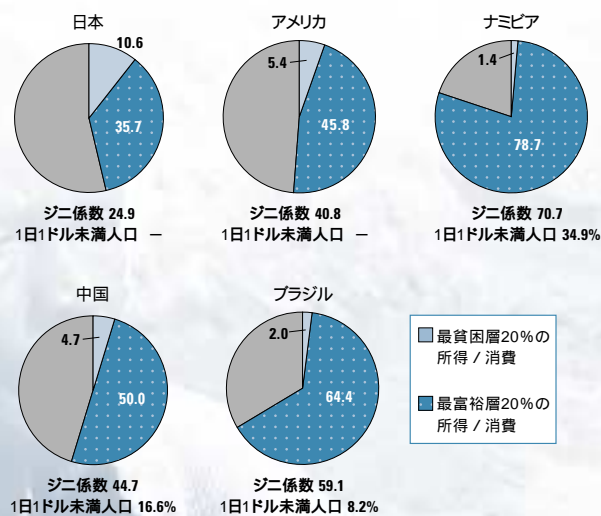
DATA

出典：世界銀行「年次報告2004」「世界開発報告2005」

1日1ドル未満で生活する人々の割合(%)



所得 / 消費の偏り

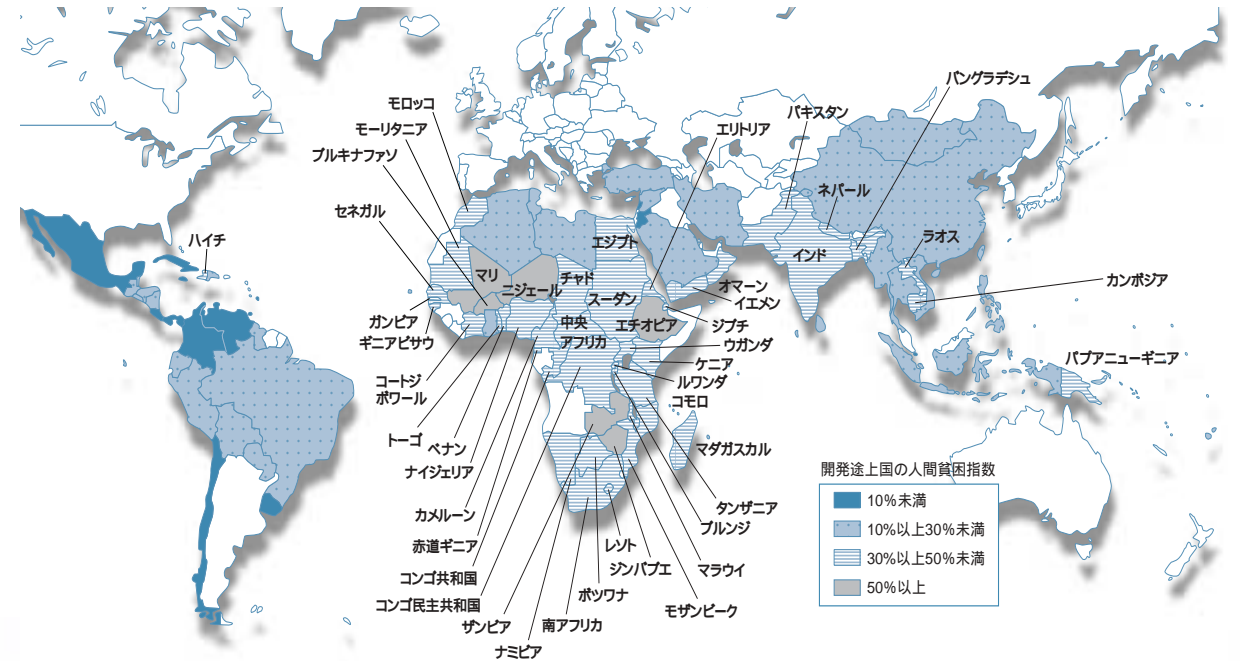


\* 円グラフはその国の所得または消費のうち、その国の最富裕層20%と最貧困層20%の人々が占める割合(%)を表している。  
 \* ジニ係数は所得あるいは消費の全体的配分の不平等を測るもの。0は完全な平等、100は完全な不平等を示す。  
 \* ここでいう1日1ドル未満とは正確には1日1.08ドル未満のこと。世界銀行は国際貧困線を1985年の購買力平価(PPP)で1日1ドルに設定していたが、2000年より93年のPPPで1日約1.08ドルに再計算した。

## A 開発途上国の人間貧困指数

DATA

出典：国連開発計画 (UNDP)「HUMAN DEVELOPMENT REPORT 2004」



(注)ここで示した指数はHPI-1。OECD諸国、中・東欧、CIS諸国(旧ソ連12カ国)と、人間貧困指数を算出するための適正なデータのない開発途上国は地図上に色がついていない。

## C 1日1ドル未満で生活する人と国内格差

世界銀行では1日約1ドルを貧困線に設定し、それ未満で生活している人を貧困としている。ミレニアム開発目標(MDGs)はそうした人々の割合を2015年までに1990年の水準の半数に減らすことを目指しているが、01年までの10年間で貧困人口の割合が増え続けているところもある。特にアフリカは目標達成のために必要な推移と実際が大きくかけ離れている。貧困を生み出す要因の一つに「不平等」があるが、その度合いを測る「ジニ係数」を見ると、日本は低いほうだが、ナミビアのように富裕層ばかりがその国の所得 / 消費の大部分を占めているところもある。

## B 複雑に絡み合う貧困の諸要因

OECDの開発援助委員会(DAC)では、「政治的能力」「社会的能力」「経済的能力」「人間的能力」「保護的能力」という5つの能力が欠如している状態を貧困としているが、貧困層自身の能力欠如だけが貧困の要因ではない。貧困を生み出す構造は国や地域によってさまざま、多くの要因が複雑に絡み合ってさらに貧困を悪化させるという悪循環に陥っている。貧困削減は国際社会の優先課題だ。問題解決のためには貧困層を取り巻くこれらの環境や社会構造を変化させ、悪循環を断ち、貧困状態にある人々の潜在能力を強化することが求められている。

## A 開発途上国の人間貧困指数

「人間貧困指数(HPI)」とは、国連開発計画(UNDP)が「貧困」を所得以外の生活の質や社会的側面から測定した数値のこと。HPIには途上国のための指数(HPI-1)とOECD(経済協力開発機構、先進国を中心に30カ国が加盟)諸国のための指数(HPI-2)があるが、HPI-1は40歳まで生存できない出生時確率、成人非識字率、改善された水源を継続して利用できない人口および年齢の割に低体重の子どもの割合の3つをもとに算出している。地図上のHPIが50%以上の6つの国では、人口の半分以上が「人間貧困」に苦しんでいることになる。